

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成21年9月10日(木) 5校時
児童 男8名 女5名 計13名
指導者 近藤 典子

1 単元名 だいじなところに 気をつけて読もう (光村図書 2年上)
教材名 「サンゴの海の生きものたち」(説明的な文章)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、以下の新学習指導要領の領域の目標と内容を具現化する学習内容である。

1 目標

(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。

(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書をしようとする態度を育てる。

2 内容

B 書くこと

(1)ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。

オ 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。

C 読むこと

(1)ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

(1)ウ(ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

本単元は、海の生き物たちがどのようにかかわり合っているのかを読みとり、共生の仕組みの不思議に興味をもつことを主なねらいとしている。

本教材「サンゴの海の生きものたち」は、美しいサンゴ礁の海の中でイソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚が、互いに役に立つようにかかわり合って暮らしている様子や理由について書かれた説明的な文章である。これまで読んできた説明的な文章に比べると、登場する生き物の数が多く、説明がやや複雑になっている。生き物相互の関係も、「共生」という内容的にやや難解な要素を含んでいる。

1学期に学習した「たんぼぼのちえ」では、時間的な順序に気を付けて内容を読みとっていった。その学習の上に立って、本教材では、生き物の違いに応じた共生の方法を順序立てて説明した文章を「どんなにかかわり合いをしているか」を中心に、大事なところをさがしながら読みとっていく。このことは、キーワードを手がかりに大事なところを押さえながら内容の大体を読みとるという説明的な文章を読む際の基礎的な力を育てていくことにつながるであろう。

また、本教材は、児童の日常から離れた世界のことではあるが、イソギンチャクやクマノミといった水族館や図鑑などで見たことがある生き物を扱っていることから、児童が親しみをもって読み進めることができる教材であるといえる。さらに、「共生」の仕組みなど新しい発見をすることにより、説明的な文章を読む楽しさを実感できる教材である。

(2) 児童について

5月に行ったアンケートでは、「国語の学習が楽しい」とする児童が9名、「どちらかという
と楽しい」が4名で、国語の学習に対して楽しさを感じている児童が多いという結果であった。
読書については、絵本など物語を好む傾向が見られる。ほとんどの子が本が好きで、楽しそうに
読んでいる。しかし、1冊の本を集中して最後まで読み通すことが難しい子もいる。

児童は、これまでに「たんぼぼのちえ」で、時間的な順序に気を付けて内容を読みとるという
学習をしている。挿絵を手がかりに、時間の順序や理由づけを示す言葉に着目させるようにした
が、言葉に着目することが難しく、挿絵を頼りに読みとっていた児童も少なくなかった。これま
での学習で、着目した言葉や文にサイドラインを引くことや吹き出しに自分の考えを書くことに
取り組み、サイドラインを引くことは徐々にできるようになってきている。しかし、なかなか自
分の考えをもてない児童や書くのに時間がかかる児童がおり、個人差が大きい。

この単元を通して、説明的な文章を読むことの楽しさに気付かせるとともに、サイドラインを
引いたり大事な言葉に着目したりして読みとっていく学び方を身に付けさせたい。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、事柄の順序をとらえさせるために写真を活用したり、動作化を取り入れた
りしながら、書かれている説明の大体を読みとることができるように学習を進めていきたい。

つかむ段階では、拡大した写真を見せることにより海の中のイメージを広げ、サンゴの海の生
き物に興味をもたせる。また、「生きものふしぎはっけんブックをつくろう」という計画を立て
て、学習への目的意識と見通しをもたせる。出てくる生き物に着目させて、教材文を4つのま
とまりに分けておおまかな文章構成をつかませるとともに、「たがいに、やくに立つようにかかわ
り合って」という記述に着目させて、読み進める際の方向づけを行う。

たしかめる段階では、写真と文を結び付けながら読みとらせたい。教材文の二つの事例につ
いて「たがいに、やくに立つようにかかわり合って」いる様子を、それぞれの生き物の特徴や行動
とわけに着目しながら読みとっていく。動作化を取り入れて、書かれている内容を具体的に理解
できるようにさせたい。

まとめる・ひろげる段階では、海の生き物について書かれた本や図鑑の中からかかわり合っ
ている生き物を探したり調べたりしてカードに書き、「生きものふしぎはっけんブック」にまとめ
させる。その際、教材文の読みとりの学習を基にかかわり合いを読みとり、カードに書くよう
にさせたい。教室には、海の生き物について書かれた本や図鑑をできるだけ多く準備しておくよ
うにする。

**読みとるための書く活動としては、それぞれの生き物の特徴や行動とそのわけにサイドラインを引
いたり、ワークシートに書き込んだり、吹き出しに書いたりする活動を行い、生き物のかかわり合い
について読みとることができるようにさせたい。**

3 単元目標

【関心・意欲・態度】

- ・ 海の生き物の共生関係や、説明的な文章の組み立てに興味をもって読もうとしている。

【書くこと】

- ・ 図書館などの本を読んで、「生きものふしぎはっけんブック」を作ることができる。
(書(1)ア、イ、ウ、オ)

【読むこと】

- ・ 「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読む
ことができる。(読(1)イ、エ)
- ・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。(読(1)ア)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・ 片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使うことができる。
(伝ウ(ア))

段階	時間	学習活動（○）と支援の工夫（・）	評 価
第一次 つかむ	1	<p>全文を読み、学習の見通しをもつ</p> <p>○ 教科書の写真を見ながら、海の中の生き物について知っていることや感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拡大写真を用意し、海の中のイメージを広げることができるようにする。 <p>○ 新出漢字、語句の確認をする。</p>	<p>（関） 興味をもって読み、写真を見て気付いたことを発表しようとする。</p> <p>〈発言・観察〉</p>
	1	<p>○ 教材文の範読を聞き、初発の感想を書いて発表し合う。</p> <p>書 初発の感想</p>	<p>（読） 初めて知ったことや不思議に思ったことなど感想を書いたり発表したりしている。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>
	1	<p>○ 学習計画を立て、見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生きものふしぎはっけんブックをつくらう」と呼びかけ目的意識をもたせる。 ・ どの生き物とどの生き物がかかわり合っているかに着目させておおまかな文章構成をつかませ、学習の見通しをもたせる。 <p>書 囲み</p>	<p>（読） かかわり合っている生き物に着目して4つのまとまりに分け、学習計画を考えている。</p> <p>〈発言・観察〉</p>
第二次 ふかめる	1	<p>「サンゴの海の生きものたち」に出てくる生きものについて、かかわり合いを読みとる</p> <p>○ イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を手がかりにイソギンチャクとクマノミの体の様子にサイドラインを引かせ、特徴を読みとらせる。 <p>書 サイドライン・部分視写・吹き出し</p>	<p>（読） イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読みとっている。</p> <p>〈発言・ワークシート〉</p>
	1	<p>○ イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イソギンチャクとクマノミの行動にサイドラインを引かせたり、お互いにとってよいことに着目させたりして、守り合っていることに気付かせる。 <p>書 サイドライン・部分視写・吹き出し</p>	<p>（読） イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読みとっている。</p> <p>〈発言・ワークシート〉</p>

ふかめる	1 (本時)	<p>○ ホンソメワケベラの体の特徴やホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を手がかりに、ホンソメワケベラと大きな魚の行動やわけにサイドラインを引かせたり、お互いにとってよいことに着目させたりして、かかわり合いを読みとらせる。 <p>書 サイドライン・部分視写・吹き出し</p>	<p>(読) ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読みとっている。 (発言・ワークシート)</p>
第三次 まとめ ・ ひろげる	2 1 1	<p>「生きものふしぎはっけんブック」を作る</p> <p>○ サンゴの海では、たくさんの生き物がさまざまにかかわり合っていることをまとめ、他の海の生き物についても本を読んで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室に、海の生き物の本コーナーを作り、休み時間や給食後に手にとって読むことができるようにしておく。 ・ 教室に準備した本の他にも図書室で本を探したり調べたりして材料を集めさせる。 <p>○ 本を読んで分かったことを絵と文でカードにまとめる。</p> <p>○ 自分が書いたカードを紹介し合い、感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアやグループで交換して読み合ったり、感想を交流し合ったりする場を設定する。 	<p>(関) 海の生き物について書いてある本を進んで読もうとしている。 (観察)</p> <p>(書) 生き物について知りたいことを本を探して調べ、分かったことを「生きものふしぎはっけんブック」にまとめている。 (カード)</p> <p>(関) 友だちが書いたカードについての感想を交流しようとしている。 (発言・感想)</p>

5 本時の指導

(1) ねらい

ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読みとることができる。

〈読みとるための書く活動〉

- 大きな魚がホンソメワケベラを食べないわけや、ホンソメワケベラが大きな魚のそうじをするわけにサイドラインを引く。
- 大きな魚やホンソメワケベラにとってよいことをワークシートに書く。
- ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを吹き出しに書く。

(2) 具体の評価規準

おおむね満足 (B)	努力を要する児童への支援
<ul style="list-style-type: none"> 大きな魚とホンソメワケベラにとってよいことを読みとってワークシートに書いている。 虫を捕ってもらったり、食べ物を得たりしている大きな魚とホンソメワケベラのかかわり合いを読みとり、吹き出しに書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「～からです。」「のです。」という文末表現に着目してサイドラインを引くようにさせ、サイドラインを引いた文の中からよいことを探すように促す。 板書や写真を手がかりにして、ホンソメワケベラにとってよいこと、大きな魚にとってよいことに着目させ、かかわり合いをとらえせる。

(3) 展開

段階 時間	学習活動と予想される児童の反応	支援の工夫 (・) と評価 (◎)
つ か む 3分	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読みとろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> クマノミとイソギンチャクのかかわり合いを、掲示をもとに想起させる。 ホンソメワケベラと大きな魚は、互いにどんな役に立っているか、一緒にいるとどんなよいことがあるか読みとることを確認する。
ふ か め る	<p>3 課題を追究する。</p> <p>○ 学習場面⑦⑧⑨を音読しましょう。</p> <p>○ ホンソメワケベラの体の様子を本文からさがしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 明るい青色の体 頭からしっぽにかけて黒いすじ 体の長さは、12センチメートル <p>○ どうして大きな魚は、ホンソメワケベラを食べないのでしょうか。わけが書いてある文をさがして線を引きましょう。 書く活動 大きな魚がホンソメワケベラを食べないわけにサイドラインを引く。</p> <p>○ 大きな魚にとってよいことは何ですか。 書く活動 大きな魚にとってよいことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホンソメワケベラが、体や口の中についた虫を、きれいにそうじしてくれる。 <p>○ どうして、体や口の中についた虫をそうじしてもらおうとよいのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 気持ちがいい すっきりする 助かる 	<ul style="list-style-type: none"> ホンソメワケベラと大きな魚の写真を拡大して提示する。 本文からホンソメワケベラの体の特徴を読みとらせ、写真で確認する。 写真を手がかりに、ホンソメワケベラや大きな魚の行動をとらえさせる。 「～からです。」という文末表現に着目させる。 支援が必要な児童には、サイドラインを引いた文から探すように促す。 ◎ ホンソメワケベラが、大きな魚の体や口の中についた虫を掃除することを読みとっている。〈ワークシート〉

<p>ふ か め る</p> <p>35分</p>	<p>○ ホンソメワケベラは、どうして大きな魚のそうじをするのですか。わけが書いてある文をさがして線を引きましょう。</p> <p>書く活動 ホンソメワケベラが大きな魚のそうじをするわけにサイドラインを引く。</p> <p>○ ホンソメワケベラにとってよいことは何ですか。</p> <p>書く活動 ホンソメワケベラにとってよいことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そうじをしてとった虫が食べものになる。 <p>○ ホンソメワケベラと大きな魚は、お互いになんと言っているでしょう。吹き出しに書きましょう。</p> <p>書く活動 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを吹き出しに書く。</p> <p>〈大きな魚〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きれいにそうじしてくれてありがとう。 ・ そうじしてもらって気持ちがいいなあ。 ・ 体についた虫をとってくれるので助かるよ。 <p>〈ホンソメワケベラ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いつも食べものをくれてありがとう。 ・ そうじしている時がぼくの食事なんだ。 <p>○ ホンソメワケベラや大きな魚になったつもりで話してみましょう。</p>	<p>◎ ホンソメワケベラにとっては、掃除をしてとった虫が食べ物になることを読みとっている。〈ワークシート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの立場で吹き出しに書くことで、互いに役に立っていることに気付かせる。 ◎ ホンソメワケベラと大きな魚が、食べ物を得たり、虫を掃除してもらったりしているかかわり合いを読みとり、吹き出しに書いている。 〈ワークシート、発言〉 ・ 動作化により、かかわり合いの様子をイメージ化させ、具体的に理解させる。
<p>ま と め る</p> <p>7分</p>	<p>4 本時の学習をまとめる。</p> <p>○ ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをまとめましょう。</p> <p>大きな魚 ホンソメワケベラが、体や口の中についた虫を、きれいにそうじしてくれる。</p> <p>ホンソメワケベラ そうじをしてとった虫が食べものになる。</p> <p>○ ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを知ってどう思いましたか。</p> <p>○ 学習をふり返りながら音読しましょう。</p> <p>5 次時の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 板書で確認する。 ・ ホンソメワケベラと大きな魚は、どちらにとってもよいことがあり、互いに役に立っているかかわり合いであることをまとめる。 ・ 一斉読み

(4) 板書計画

